

社会資本総合整備計画(社会資本整備総合交付金事業(住環境整備事業))(第1回変更)

はぎし  
萩市における<sup>れきしてき</sup>歴史的<sup>けいかん</sup>景観<sup>かんきょう</sup>環境<sup>せいび</sup>整備(第<sup>だい</sup>Ⅱ<sup>き</sup>期)

はぎし  
萩市

平成27年4月

(平成29年10月 執行状況追記)



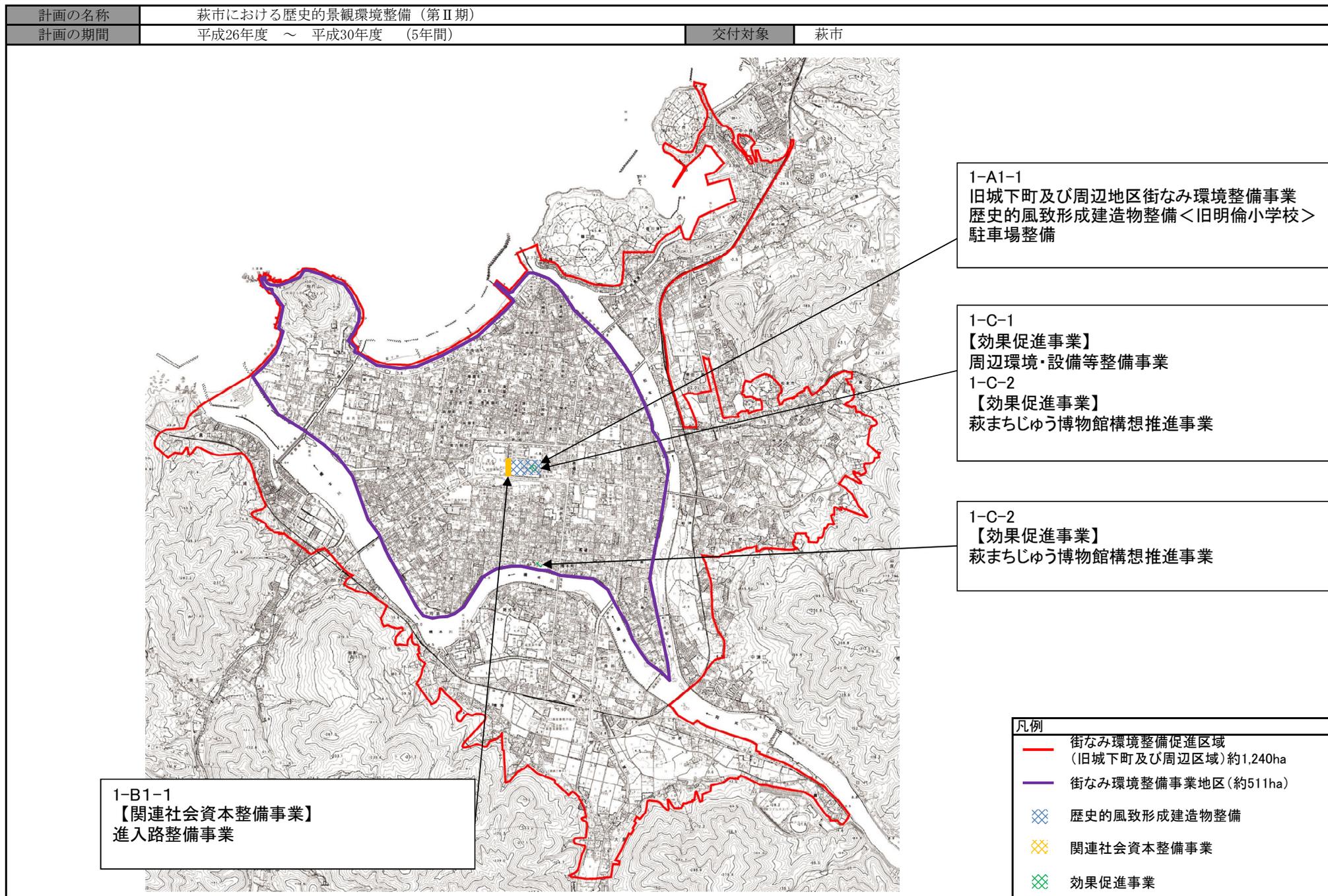
交付金の執行状況

(単位:百万円)

	H26	H27	H28	H29	H30
配分額 (a)	91	91	73		
計画別流用 増△減額 (b)			15		
交付額 (c=a+b)	91	91	88		
前年度からの繰越額 (d)					
支払済額 (e)	91	91	88		
翌年度繰越額 (f)					
うち未契約繰越額 (g)					
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0		
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%	0.0%	0.0%		
未契約繰越+不用率が10%を超えている 場合その理由	-	-	-		

※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。

(図面) 社会資本総合整備計画 (社会資本整備総合交付金事業 (住環境整備事業))



＜指標＞ 萩地域(旧萩市)への観光客数

＜指標の対象＞

萩地域(旧萩市)

＜指標選択の理由＞

本事業で整備を行う建造物は、市街地の主要観光施設の中心部にあるという立地条件からも、観光の玄関口として活用することとしており、現在市内に点在している観光案内所等を集約し、観光客の利便性や満足度を高めることが期待されているため指標対象として選択した。

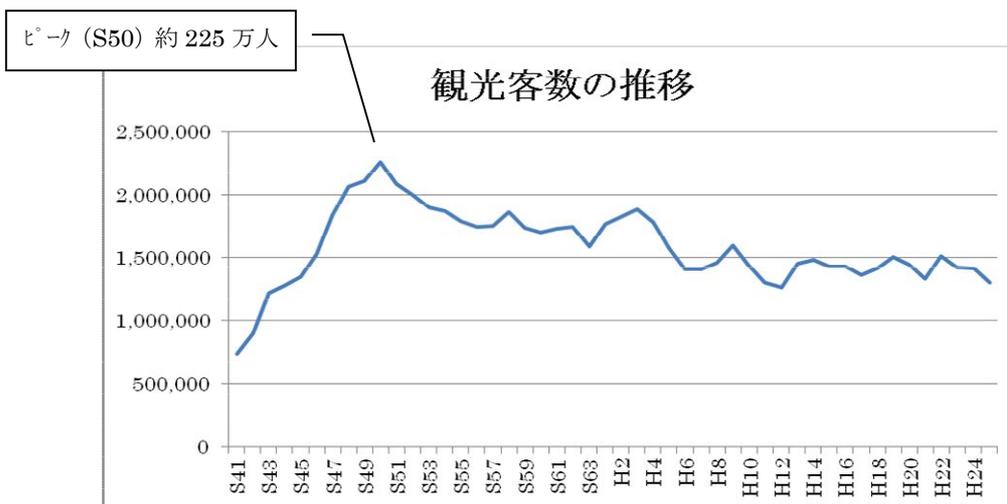
＜指標の目標設定＞

事業開始前の平成 25 年実績と事業完了時の平成 30 年の増減率を比較し、15%増加を目標とする。

＜目標設定の考え方＞

当市の観光客数は、山陽新幹線が博多まで開通した昭和 50 年をピークに減少に転じている。近年では平成 22 年の約 151 万人をピークに年々減少しており、また、平成 25 年には大規模災害の影響もあり大幅な観光客数の減少となり、今後も減少傾向が続くことが想定される。

しかしながら、本事業の実施により、観光客の利便性や満足度を高めることができ、また、各観光施設との連携が強化され、萩まちじゅう博物館構想の一層の推進により、観光客の減少に歯止めをかけ、更には上昇に転じることを目指し目標として設定した。



＜近年の観光客数＞

(単位:人)

年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
観光客数	1,510,607	1,417,992	1,410,044	1,323,737

## <指標> 公開文化財施設等の入場者数

### <指標の対象>

萩地域(旧萩市)の公開文化財施設等	16施設		
木戸孝允旧宅	口羽家住宅	青木周弼旧宅	旧湯川家屋敷
桂太郎旧宅	伊藤博文別邸	旧田中別邸	旧久保田家住宅
瀧口家	玉木文之進旧宅	渡辺蒿蔵旧宅	旧山中家住宅
旧山村家住宅	梅屋七兵衛旧宅	平安古かいまがり交流館	旧萩藩校明倫館

### <指標選択の理由>

本事業で整備を行う建造物は、校舎棟のうち本館棟が国の登録有形文化財に指定されており、残りの校舎棟についても文化財の指定を予定している。整備後にはこの建物からの情報発信を行うなど、萩地域内にある文化財施設等との連携をより深めることにより相乗効果による公開文化財等の入場者数の増加が期待されるため、指標として選択した。

### <指標の目標設定>

事業開始前の平成 25 年実績と事業完了時の平成 30 年の増減率を比較し、5%増加を目標とする。

### <目標設定の考え方>

萩地域の公開文化財施設等の入場者数は、平成 20 年に施設入場料の有料化を行った後、平成 23 年の約 22 万人をピークに年々大幅に減少している。

しかしながら、本事業の実施により、文化財施設の魅力を発信し、また、公開文化財施設等の相互の情報発信などの連携を強化することにより入場者数の増加を目指し目標として設定した。

**<指標>** 定住対策支援による空き家バンク等を利用して他地域から定住した人数

**<算定式の根拠>**

萩市においては、平成 18 年度より空き家情報をホームページにおいて提供し、また、民間の不動産会社等と情報提供して、他地域からの定住政策を行っている。

平成 20 年度から平成 24 年度の過去5年間における、この制度を利用した他地域からの定住者数の総数は 44 世帯 85 人であり、平均数は 8.8 世帯 17.0 人である。萩市においては、本事業の実施による萩市固有の歴史的景観を活かしたまちづくりを進めることにより、今後 5 年間の他地域からの定住者平均数の 5%増加を目指すことを目標とする。

## 社会資本整備総合交付金チェックシート

計画の名称：萩市における歴史的景観環境整備(第Ⅱ期)

地方公共団体名：萩市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①上位計画等との整合性	○
②地域の課題への対応(地域の課題と整備計画の目標の整合性)	○
II. 計画の効果・効率性	
①整備計画の目標と定量的指標の整合性	○
②定量的指標の明瞭性	○
③目標と事業内容の整合性	○
III. 計画の実現可能性	
①円滑な事業執行の環境(事業熟度、住民等の合意形成等を踏まえた事業実施の確実性)	○
②地元の機運(住民、民間等の活動・関連事業との連携等による事業効果発現の確実性)	○

街なみ環境整備方針説明書

都道府県名	山口県	市町村名	萩市	区域名	旧城下町及び周辺地区	
区域現況	区域の概況	本区域は、現在の萩市の中心市街地とほぼ重なり、毛利藩政期260年間に形成された城下町のたたずまいや町割りなどが今日まで継承されており、歴史的に価値の高い建造物が集中的に存在している。しかし、近年老朽化等により急速に歴史的な風情やたたずまいが失われている現状である。				
	道路の現況	城下町地区の街路は、御成道の一部をなす呉服町の通りを中心とした東西方向の通りを基軸に基盤の目状に配され、通りの両側に各町が形成され、現在でも大半がそのままの幅員で市街地の街路として継承されている。幅員は狭いが、周辺幹線道路に通じており、市民の日常的な交通路として、観光客の主要観光ルートとして利用されるため、通行量が多い状況である。				
	公園等の現況	国指定史跡「萩城跡」内のある「指月公園」、旧城下町の近くに位置する「中央公園」、幕末維新に関連する国指定史跡「松下村塾」等がある松陰神社の近くに位置する「陶芸の村公園」や他に11箇所の街区公園がある。また、平成22年に「唐樋札場跡公園」が歴史的環境形成総合支援事業で整備を完了した。				
	地区住民のまちづくり活動の概要	萩市のまちづくりの基軸である「萩まちじゅう博物館」を推進する市民団体である「NPOまちじゅう博物館」を中心として、浜崎重要伝統的建造物群保存地区の保存活用を行っている「浜崎しっちゃん会」や、市内文化財施設の管理やガイド等を行っている「NPO萩観光ガイド協会」が、魅力あるまちづくりに努めている。その他にも、地域が持つ歴史的特性をまちづくりに活かそうとする市民活動が活発に行われている。				
区域の整備に関する基本計画	整備の目標	歴史的風致形成建造物等やその周辺環境の整備を行うことで、歴史的景観の保存や住環境の向上を図り、それらを活用することにより地域固有の魅力あるまちづくりを推進する。				
	整備の時期	平成26～30年度の5年間				
	地区施設等の整備に関する基本事項	通路等	歴史的町並みが残る区域では、歴史的・文化的価値に配慮しつつ周辺環境との調和した道路景観の整備を検討する。また、市民及び観光客のために、安心安全な交通路を確保し、回遊性の向上を図る環境整備を検討する。			
		小公園等	萩の歴史的遺産と調和した景観形成に努めるとともに、市街地における良好な都市環境に資する公園の整備を検討する。			
		その他	歴史的建造物の周辺地域については、都市計画法、萩市景観条例、萩市屋外広告物等に関する条例に基づき、これらと調和した環境、景観の規制及び誘導を行う。			
	住宅等に関する基本事項	住宅・敷地	萩市景観条例に基づく、萩市景観計画の景観形成基準により、規制、誘導を図る。 歴史的建造物等については、歴史的景観に調和したものとする整備を図る。 夏みかんの植栽など歴史的景観と調和した植栽を行い、緑豊かな住環境の整備を図る。			
その他の事項						

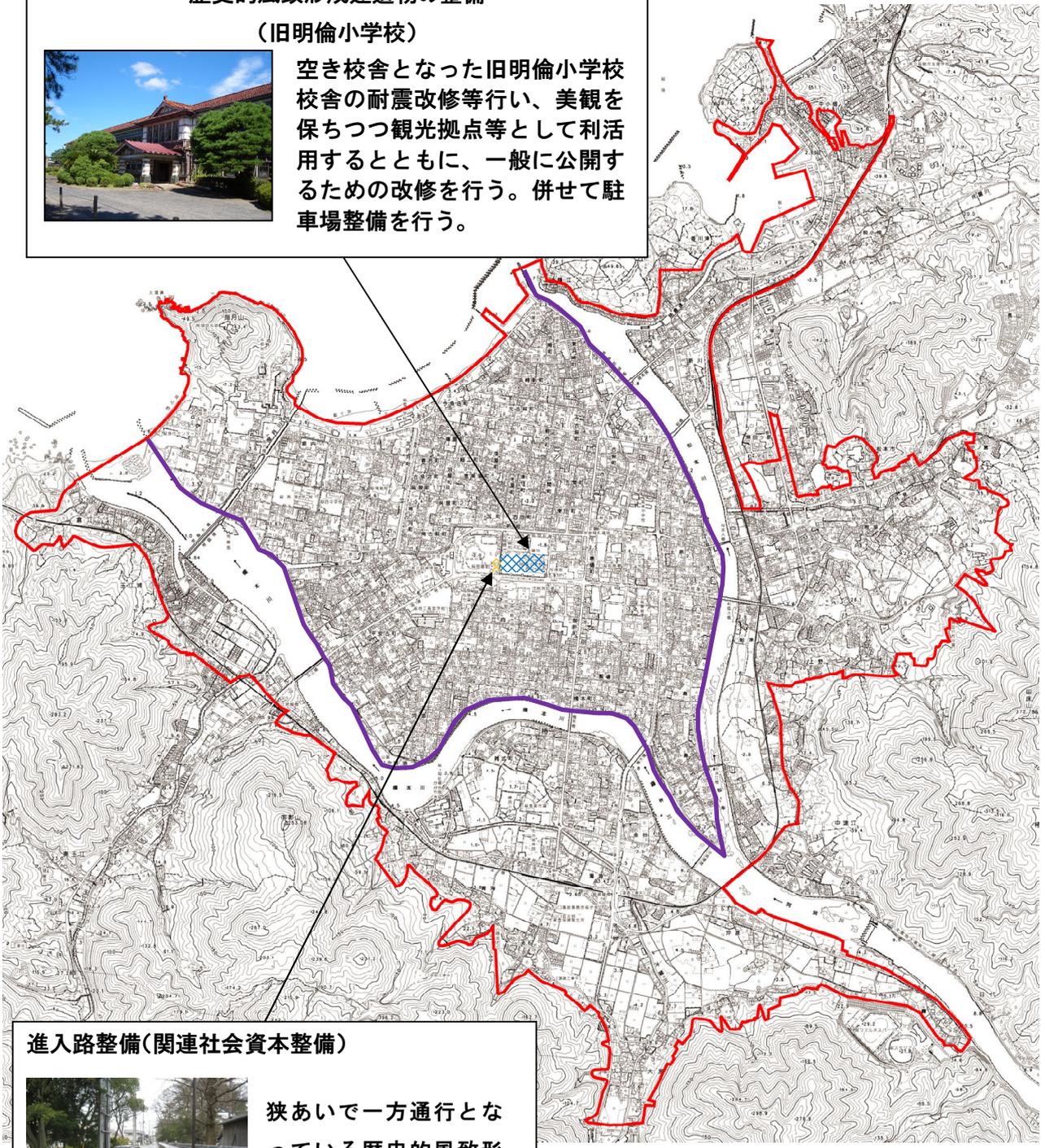
【整備方針図】

地区名	旧城下町及び周辺区域
-----	------------

**歴史的風致形成建造物の整備**  
(旧明倫小学校)



空き校舎となった旧明倫小学校校舎の耐震改修等を行い、美観を保ちつつ観光拠点等として活用するとともに、一般に公開するための改修を行う。併せて駐車場整備を行う。



**進入路整備(関連社会資本整備)**



狭あいだで一方通行となっている歴史的風致形成建造物及び駐車場への進入路を拡幅する

- 街なみ環境整備促進区域 (旧城下町及び周辺区域) 約 1,240ha
- 街なみ環境整備促進区域事業地区 (約 511 ha)
- ▨ 歴史的風致形成建造物整備
- ▨ 進入路整備

【位置図・区域図】

